



「医療専攻」便り

新潟県立三条東高等学校 vol. 5 (令和5年12月20日)

●第4回医療専攻講演会 11月9日(木) 16:00～17:00

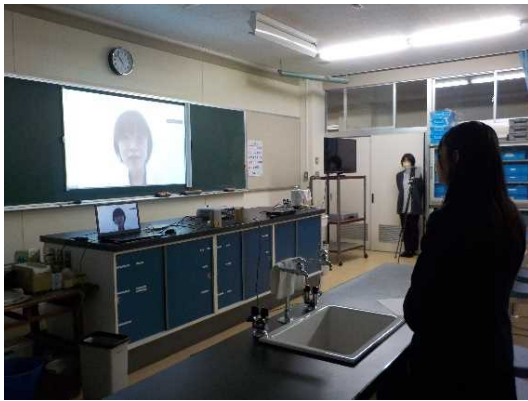
講演①「新潟難病サポートプロジェクト 難病について知って欲しいこと」

講師 齋藤 奈つみ 医師 (西新潟中央病院 脳神経内科)

講演②「難病と分かって」

講師 瓶子 隆 さん(「特発性 ACTH 単独欠損症」の患者さん)

みなさんは学校にある自動販売機(4つのうち左の2つ)は売り上げの一部が難病患者さんの支援に使われていることを知っていますか。そのご縁から NP0 法人新潟難病支援ネットワーク新保様にご尽力いただき、オンラインで講演会を開催していただきました。今回は普段難病の患者さんを診ておられる先生と患者さんご自身からのお話を伺うことができました。



《生徒の感想》

今回の講演会を聞いて難病についていろいろなことを知ることができてよかった。齋藤先生のお話では難病指定、認定される基準や病院で診ている難病の種類について学ぶことができた。一番興味をもった内容はパーキンソン病についてで、パーキンソン病は神経難病の中で最多を占めていて病気の進行がゆるやかであること、薬の使用が増えることで効果の低下でウェアリングオフ現象というのが現れることなどがすごく印象的だった。私の曾祖母が軽いパーキンソン病を持っているので今後どのような症状が現れるのかなどパーキンソン病を理解することができた。また、瓶子さんの話では難病との付き合い方や、難病患者として病気になってから勇気づけられたことなど、貴重なお話を聞けてよかった。特に病気になって「つらくても頑張っている人がいるから頑張れ」とおっしゃった言葉がすごく心に残った。難病は外見だけでは判断できないものがあるので理解しにくいために、もっといろいろな難病の方から話を聞いて探究に活かしていきたいと思った。難病の方を支えていくためには本人やご家族の負担を減らしていくために自分たちができることがあるのか考えていきたい。

《生徒の感想》

これまで難病について知る機会がなかったので今回の講演はとてもためになりました。難病はたくさんの課題があることを学びました。患者さんやその家族が適切なサポートを受け、難病について社会がもっと理解すべきだと思いました。医療・経済・精神的なサポートとなど様々な面からの取り組みが不可欠で、難病に立ち向かうためには個人だけでなく、社会全体が協力して、ともに生きることができる社会を目指すことが重要だと思いました。

そして社会的な側面だけでなく倫理的な面も大切だと思いました。1つはインフォームドコンセントです。難病の患者さんに対しては治療法と手順についての正確な情報を提供し、患者さんが理解し、同意することは不可欠だと思いました。もう1つは患者さんのプライバシーと権利を尊重するということです。患者さんの医療情報や個人情報適切に保護され、患者さんの選択が尊重されるべきだと思いました。

●第1回1年生対象医療専攻講演会 12月7日(木) 16:00～17:00

講師 新潟青陵大学 小林 正子先生

演題 医療従事者になるための心構え

医療従事者を目指す人にとって大事なことは何か、わかりやすくお話しいただきました。1年生の医療専攻希望者が参加する初めての講演会でしたが、緊張した面持ちで真剣に聞いていました。講演後、「医療従事者として必要なことは何ですか」という問いに対して、自分の考えを伝えることができました。



《生徒の感想》

今回医療従事者と看護職について詳しくお話を聞き、この2つについて知識を得ることができました。

1つめは看護職には聴く力、感じる力、伝える力が大事でコミュニケーション力がとても大切だと知ることができました。私は人と話をすることが大好きというわけではないので、話を聞く時の反応や相づちをこれからの生活で意識したいと思いました。また、患者さんをケアするのはもちろん自分のこともケアすることが大事と知り、納得しました。そして命に寄り添う仕事だから動じないメンタルと詳しい知識と正確な技術が必要だと思いました。それを得るために今からいろいろなことを学び経験したいと思いました。

2つめは今医療従事者が減っていて、少子高齢化によって入院する人が増えていて大変な状況だと知りました。病院内でも病院外でも患者さんがサポートするために医療従事者が連携することが大切だと知り、納得しました。また、患者さんが住み慣れた地域で生活支援が確保できる地域包括ケアがこれからは必要ということを知り、医療のあり方も変化しているのだなと感じました。患者さんにあわせて多様化していて学校で習ったことだけでないことを知ることができてよかったです。看護職に興味がわきました。

《生徒の感想》

今回の講演会を聞いて看護職に求められるものはコミュニケーション能力も必要ですが、読解力や伝える力が必要になるということが分かりました。ただ、患者さんの話を聞くだけでなく、話を聞いて患者さんの希望通りにするにはどうしたら良いか考え、その考えを患者さんに伝える力も大切ということが分かりました。考えを伝える際、お金などの面で患者さんにとってマイナスにならないために社会制度も常に勉強して知識をつけることが大切ということも分かりました。看護職についたら患者さんが亡くなってしまうところに立ち会ってしまう時がありますが、エネルギーを使ってしまう場面に会ったらエネルギーを作ることも大切ということが分かりました。看護職は常に勉強しなければならないので高校で勉強する力をつけていきたいと思いました。